



みさき

39号

美咲町議会だより



主な内容

町民が考える美咲町の課題
第3回「適正な議員定数」

2～3

12月定例議会の報告

4～5

ただ
町政を質す14議員

10～23

美咲町の課題

議会改革特別委員会より

議長年頭所感

美咲町議会議長
貝阿彌幸善

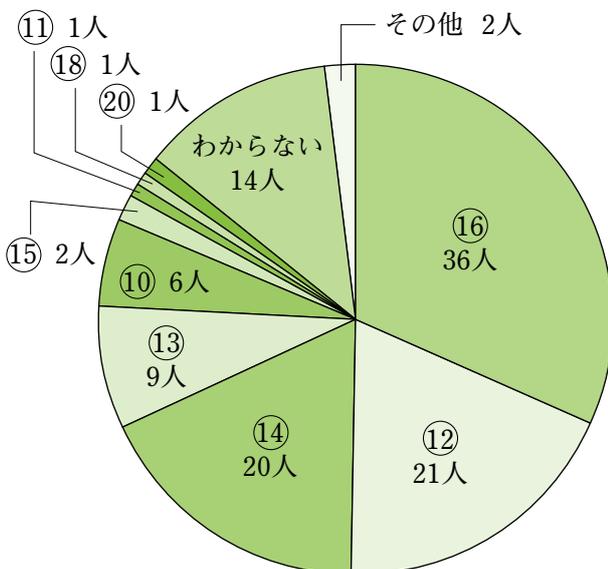


年頭にあたり、議会を代表しご挨拶申し上げます。
美咲町は本年3月10年が経過します。これまでの10年間で新しい自治体としてのさまざまな基盤が確立されてまいりました。今後の10年間は、この基盤を基に一つの町として如何に飛躍させていくかということが重要な課題となります。ア

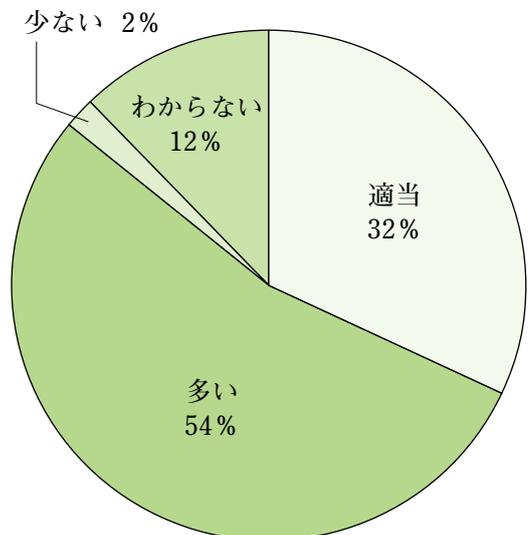
国が唱える「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と連動させる地方版総合戦略の策定に対して、議会としても既に設置いたしました定任対策特別委員会を中心に積極的に取り組んでまいります。
また、継続して進めております議会改革に対しましては、去る12月定例議会の会期中に特別委員会を開催し、現在の条例定数16人を次期改選期より14人に削減する決断を行っております。
今後も町民皆様のお知恵を拝借し、町民総参加で町づくりが出来ますよう一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。
本年が町民皆様にとりまして最良の年となりますようご祈念致します。

第3回美咲町議会報告会での実施アンケート（抜粋）

① 美咲町議会議員の定数は何人が適当ですか。



② 美咲町議会議員の定数（16人）について、どう感じますか。



※H26.5実施（アンケート回答数113人）

【第3回 適正な議員定数】

【特集】

議会改革特別委員会開催状況報告

この委員会は、改選後の25年6月議会において全議員16人の構成により、2年間の期限内で定数・報酬などを審議する目的で設置しました。

削減すべきなど、各議員がそれぞれの信念に基づいた意見を述べ合い、定数削減を決定した他町議会に実地調査に出向くなど積極的に審議を重ねました。

26年末までに議員定数を、27年3月までに委員会構成・議員報酬などの方針を出す日程を定め、活発かつ真摯に議論を重ねてまいりました。

26年12月12日の第10回委員会において、議員定数については充分議論が行われたので、投票により決定することとしました。

議員定数については、合併当時の40人を一気に16人とした経緯を踏まえ、議会制民主主義や二元代表制の役割などから現定数維持の意見がある一方、人口減少・交付金削減などを踏まえ、行財政改革、近隣町村の削減状況などを考慮すれば、

投票方法は各議員の意見を明示できる記名式とし、議論の経緯を踏まえ、まず「現状維持」か「定数削減」について1回目の投票を実施しました。

次に削減後の具体的な定数について2回目の投票を実施しました。投票結果は「15」が3人、「14」が12人、「12」が1人となり、2削減の14人とすることを決定しました。

（各議員の投票結果は下表のとおり）

今後は、この定数削減を踏まえ、委員会構成・議員報酬のほか、より町民に開かれた議会となるよう諸課題を解決すべく建設的議論を深めてまいります。

なお、議員定数・委員会構成・議員報酬などの関係条例・規則など改正が必要となる事項は、27年6月の委員会設置期限までに諸手続きを終えるよう対応する予定です。

議員定数投票結果一覧表

議員氏名		1回目															
計	貝阿彌幸善	岡田 壽	山本 宏治	下山 和由	松島 啓	三船 勝之	江原 耕司	金谷 高子	岩野 正則	松田 英二	形井 圓	延原 正憲	片山 剛	左居 喜次	小林 達夫	林田 実	削減
その他	現状維持	現状維持	削減	削減	削減	現状維持	削減	現状維持	削減	削減	現状維持	現状維持	削減	削減	削減	削減	削減
1人	10人	5人															
定数削減を前提として投票した結果																	
12	14	15															
1人	12人	3人	14	15	14	14	14	14	14	12	15	14	14	14	14	14	2回目

12月定例会の報告

12月2日から
12月16日まで

定例会が招集され、26年度一般会計など予算12件、条例5件、その他6件、陳情・要望6件などの議案が上程された。

補正予算

一般会計へ
1億3,400万円の増額を可決

一般会計歳入・歳出に1億3,453万円を追加し、一般会計の総額を110億2,478万円とする。
また、国民健康保険事業特別会計に2,405万円の増額を行うなど11特別会計の歳入・歳出に3,969万円を追加するもの。
審議の結果、一般会計および特別会計ともに全会一致で可決、承認。

◎ 一般会計補正予算

【主な歳入】

☆町税 8,484万円

☆国庫支出金

1,963万円

☆県支出金

3,381万円

☆繰入金

△2,900万円

【主な歳出】

★地方バス路線運行維持補助金
1,000万円

★防犯カメラ設置事業
300万円

★障害福祉サービス費等給付費
2,700万円

★道路新設改良費
1,282万円

条例の制定

条例の制定が上程され、審議の結果全会一致で承認した。主な内容は次のとおり。

国民健康保険条例の一部改正

健康保険法の改正により出産一時金の支給金額を現行の39万円から40万4千円に改める。

町有住宅管理条例の一部改正

町有やなはら住宅の家賃を現行の4万円から階数別の家賃に値下げして入居促進を図る。

請願・陳情

総務常任委員会へ付託

集団的自衛権についての憲法解釈変更をしないよう関係機関に意見書を提出することを求める陳情（継続審査分）

岡山県平和委員会

会長 大西幸一

閣議決定の是非について議論があり、賛成多数で**趣旨採択**とした。

民生教育常任委員会へ付託

ウィルス性肝炎患者者に対する医療費助成の拡充に関する**請願**

【紹介議員：松島啓】
全国B型肝炎訴訟
広島原告団岡山支部

松葉勝幸

重症化した患者の自己負担額には限界があることは理解できる。よって**採択**とした。

年金削減の取りやめと最低保障年金制度の実現を求める陳情

全日本年金者組合
岡山県美作支部

支部長 葛原 智

年金制度は現在だけでなく将来のことも考え議論すべきであり**趣旨採択**とした。

産業建設常任委員会へ付託

商工業振興事業補助金の予算措置に関する**要望**

久米郡商工会
会長 西本和馬

商工会にあつては将来の状況を的確に見据

えた運営を図るよう意見を付して**採択**とした。

美作岡山道路の建設促進を求める陳情（継続審査分）

山田 章
ほか10名

美作岡山道路の建設について岡山県にルート再検討の働きかけを求める**要望**（継続審査分）
高規格道路をみんなで考える会

代表者 山田芳裕
地元自治会で行われている協議の結論を見守る必要があり、賛成多数で**継続審査**とした。



利用しやすくなる町有やなはら住宅

討論

集团的自衛権についての憲法解釈変更をしないよう関係機関に意見書を提出することを求める陳情書に対する討論

反対討論

金谷高子議員

今回の閣議決定は、平和主義を貫いた憲法の柱を堅持し、憲法第9条のもとで例外的に自衛のための武力行使が許されるという72年の政府見解の基本論理を維持し、これまでの憲法9条を巡る議論と整合する合理的な解釈の範囲内であり、憲法の基本原則である平和主義を変更するものではない。

以上のことからこの陳情は不採択とすべきであり、趣旨採択には反対する。

賛成討論

山本宏治議員

閣議決定の是非についての議論が行われる中で、平和主義の考えは主張する必要があるという観点から趣旨採択に賛成する。

■採決の結果、賛成多数で趣旨採択とした。

林田議員	賛成
小林議員	賛成
左居議員	賛成
片山議員	賛成
延原議員	賛成
形井議員	賛成
松田議員	賛成
岩野議員	賛成
金谷議員	反対
江原議員	賛成
三船議員	賛成
松島議員	賛成
下山議員	賛成
山本議員	賛成
岡田議員	賛成

人事案件

人権擁護委員の選任

人権擁護委員の任期満了に伴い委員の選任に同意した。



美咲町打穴上

内田 一志氏

(再任)

議員発議

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成は、治療方法が限定的となっているため実効性が発揮できていない。毎日120人が亡くなっている肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成を含む生活支援の実現は一刻の猶予もない課題である。

米価暴落に対する緊急対策を求める意見書

我が国の農業の現状は、農業従事者の高齢化などにより耕作放棄地が増加の一途をたどり、26年産米の価格は全ての品種で25%程度前年を割り込んでいる。

この市場原理の状態を放置すれば日本の農業は壊滅的状态となることは明らかである。これを回避するためには、政府の責任において緊急的な有効対策を打ち出さなければならぬ。

この内容を強く求めるこれらの意見書を日本政府に対して送付した。

11月臨時議会の報告

11月25日に臨時議会が招集され、一般会計補正予算など9件の議案が提案された。

補正予算

一般会計へ
2,490万円
の増額を可決

一般会計歳入・歳出に2,490万円を増額し、総額を108億9,024万円とするもの。全会一致で可決。

◎一般会計補正予算

【主な歳入】
☆県支出金

1,490万円

【主な歳出】

★衆議院選挙費

1,490万円

◎特別会計補正予算

★中央簡易水道事業

2,300万円

その他案件

工事請負契約の締結

工事請負契約案が上程され、審議の結果全会一致で承認した。主な内容は次のとおり。

◇特定環境保全公共下水道久木地区管渠推進工事2工区
(株)大森工務店

(倉敷市)

◇下水道管の特殊工法による工事を4,644万円に契約する。

◇簡易水道打穴中受水池新設工事1工区
(株)ベルテクノ

(名占屋市)

◇中央簡易水道の受水池(2基)の築造工事を3億4,992万円に契約する。

総務常任委員会報告

子どもの見守りに 防犯カメラ設置費300万円

総務常任委員会に付託を受けた予算5件、条例1件、その他2件について審議した結果、全議案を承認。継続審査としていた陳情1件は趣旨採択とした。

【主な質疑応答】

【総務課】

問 選挙費に450万円の予算を計上しているが、何をするのか。

答 投票用紙自動分類機を購入することで、開票作業の手間を省き人件費の抑制を図る。

【まちづくり課】

問 防犯カメラ設置費300万円の詳細は。

答 子どもの通学路を中心に旭2カ所、中央5カ所、柵原3カ所。合計10基設置する。

【情報交通課】

問 みさぎネットのケーブルが断線する要因は何か。

答 蛾の幼虫による被害が多く発生している。一定の区間をやり替えると100万円程度の費用が必要。

【税務課】

問 平成28年度から固定資産税の前納報奨金を廃止するようだが、町民へのお知らせはいつするのか。

答 27年3月定例会に議案を提出す



完成間近の防災拠点（さくらグラウンド南端）

る。承認されれば4月以降で周知を図る。

◇現地を確認

議案審議に関連して☆うたのしも団地法面工事予定地(打穴下)

☆旭地域第5分団第2部消防機庫(西井和) ☆みち停あさひ足湯設置場所 (西川) を視察

民生教育常任委員会報告

町有やなはら住宅の家賃を値下げ

民生教育常任委員会に付託を受けた予算3件、条例3件、請願1件、陳情1件について審議した結果、全議案を承認。請願は採択、陳情は趣旨採択とした。

【住民課】

問 町有やなはら住宅の値下げは現在の入居者も対象になるのか。

答 27年4月以降全ての入居者に適用される。

【主な質疑応答】

【保険・年金課】

問 国民健康保険の条例改正で出産育児一時金が引き上げられたのはなぜか。

答 産科医療保障制度の掛け金が引き下げられたことにより、保険加入者へは42万円、未加入者へは40万4千円が支給される。自宅出産の人が増額される。

階数	家賃
1階	37,000円
2階	37,000円
3階	34,000円
4階	31,000円
5階	28,000円



子どもたちに食育を（旭小学校）

【教育総務課】

問 町内小・中学校の給食費や洋式トイレ化は統一されているのか。

答 過去の経過を引き継いでいるため統一できていない。

【生涯学習課】

問 町史編纂の追加予算210万円の詳細は。

答 編集委員30人、調査協力員140

人などへの報酬として予算化した。最終的には32年度の完成予定。

【福祉事務所】

問 緊急通報システムがセンター方式に変更されたのはなぜか。

答 従来の方式では、協力員が留守の場合は繋がらない。センター方式なら確実な対応ができる。

産業建設
常任委員会
報告

人・農地問題解決
推進事業に新規着手

産業建設常任委員会に付託を受けた予算3件、条例1件、要望1件について審議した結果、全議案を承認。要望は採択、継続審査としていた陳情・要望は引き続き継続審査とした。

なお、次の項目について意見を付した。
○商工業振興事業補助金については、実績報告に見合った補助金額の設定を心掛けること

問 津山市への下水道処理料金が285万円増加したのはなぜか。

答 中山間地域総合整備事業負担金が150万円増加した要因は。

【建設課】

問 中山間地域総合整備事業負担金が150万円増加した要因は。

答 供用開始により汚水の処理量が増えたため負担金が増額となった。

【産業課】

問 人・農地問題解決推進事業240万円とは何か。

答 農地を貸し付けて、貸し手と受け手が合意できれば、面積に応じて30万円〜50万円の協力を支給する制度。今回は6戸分を計上した。

【建設課】

問 旭地域町道オドロ線の中で、落石防止のための防災工事を追加するために必要な予算。

答 旭地域町道オドロ線の中で、落石防止のための防災工事を追加するために必要な予算。☆栃原ふれあい公園（栃原） ☆みち停あさひ足湯設置場所（西川）を視察



スムーズな下水道運営を（真空ポンプ場）

組合議会の報告

組合議会とは、行政上の目的別に他の市町村と共同で事務処理を行い、目的の事業を効率的に行う団体組織

久米郡養護 老人ホーム組合 (静香園)

(津山市、久米南、美咲町)
10月6日、定例会を開催し、25年度決算認定、26年度一般会計補正予算766万円、特別会計補正予算24万円など4議案を審議、全会一致で可決した。

勝英衛生施設組合

(美作市、西栗倉村、勝央、奈義、美咲町)
10月7日、定例会を開催し、副議長に井戸氏(奈義町)を選任。25年度決算認定、26年度一般会計補正予算731万円の2議案を審議、全会一致で可決した。

柵原、吉井、英田 火葬場組合

(美作、赤磐市、美咲町)
10月16日定例会を開催し、25年度決算認定、26年度一般会計補正予

算減額43万円など2議案を審議、全会一致で可決した。

柵原吉井特別養護 老人ホーム組合 (吉井川荘)

(赤磐市、美咲町)
10月16日定例会を開催し、25年度決算認定、

津山圏域 衛生処理組合

(津山市、鏡野、美咲町)
10月23日、定例会を開催し、25年度決算認定、26年度補正予算898万円、条例4件など6議案を審議、全会一致で可決した。



真剣に聴き入る未来の消防士たち

津山圏域 西部衛生施設組合

(津山市、鏡野、美咲町)
26年度一般会計補正予算3,397万円など2議案を審議、全会一致で可決した。

10月23日、定例会を開催し、25年度決算認定、26年度組合会計補正予算1,637万円など3議案を審議、全会一致で可決した。

津山圏域 資源循環施設組合

(津山市、鏡野、勝央、美咲町)
11月7日、定例会を開催し、25年度決算認定を賛成多数で可決した。

報告事項

管理棟建設工事の契約を5億9,640万円で田村工務店津山―田村工務店JV(津山市)と締結した。

津山圏域消防組合

(津山市、鏡野、奈義、勝央、久米南、美咲町)
11月10日、定例会を開催し、25年度決算認定、26年度一般会計補正予算1,747万円、条例の一部改正1件など3議案を審議、全会一致で可決した。

津山広域事務組合

(津山市、鏡野、奈義、勝央、久米南、美咲町)
11月10日、定例会を開催し、25年度決算認定2件、26年度一般会計405万円、26年度特別会計147万円、条例の一部改正など5議案を審議、全会一致で可決した。

津山地域 農業共済事務組合

(津山市、鏡野、久米南、美咲町)
11月10日、定例会を開催し、25年度決算認定、条例の一部改正3件など4議案を審議、全会一致で可決した。

岡山県中部環境 施設組合

(真庭市、美咲町)
12月24日、定例会を開催し、25年度決算認定、26年度一般会計補正予算291万円など3議案を審議、全会一致で可決した。

一般質問

議員が町の執行部に対してさまざまな角度から町政について質問する

町政を問う

議員名	掲載ページ	質問内容
下山 和由	10ページ	1. あらゆる分野で思い切った施策を 2. 新クリーンセンター稼働準備は 3. どうなる県道津山柵原線改修工事
林田 実	11ページ	1. 交付金の充実で地域を元気に 2. ピオーネ海外販売の目的は 3. 今後の介護保険事業の見通しは
小林 達夫	12ページ	1. 吉井川の水質は大丈夫なのか
松島 啓	13ページ	1. 持続可能な予算編成の方針は 2. 地域行政懇談会は毎年開催を 3. 積極的・専門的な職員研修を
三船 勝之	14ページ	1. あらゆる角度からの地方創生を 2. 里親制度の普及推進を
左居 喜次	15ページ	1. 合併10年今後の課題と対策は 2. みさきみぐりのPRバス運行を
松田 英二	16ページ	1. 法改正に伴う入札への取り組みは 2. 避難所の周知と防災意識の徹底は十分か
片山 剛	17ページ	1. カワウ駆除の助成金を検討せよ 2. 定住促進に向けた施策を 3. 取り組みやすい要綱に
延原 正憲	18ページ	1. 農林業の振興に支援強化を 2. 美作岡山道路建設に積極的な関与を 3. 老朽危険家屋撤去の実績は
岩野 正則	19ページ	1. 町の収入をどう増やすか 2. 桃太郎伝説で町のPRを 3. 空き家対策のスピードアップを
形井 圓	20ページ	1. 美咲町の地域創生をどう進めるか 2. 最低制限価格見直しの結論は 3. 所有者の責任で災害復旧を 4. シルバー人材センターにさらなる支援を
山本 宏治	21ページ	1. 足湯でさらに地域活性化を図れ 2. 地域と一緒に定住対策を
金谷 高子	22ページ	1. 地域包括ケアシステムへの考えは 2. ESDを取り入れた教育を 3. 地域おこし協力隊で活性化を 4. 鉾山公園をもっと楽しめる施設に
岡田 壽	23ページ	1. 児童虐待から地域の宝を守れ 2. 指定管理契約を見直せ



あらゆる分野で 思い切った施策を

質問

答弁

町民と協働し 全力で取り組む

問

合併記念事業として30億円もの巨額な予算を投じたみさきネット事業だが、加入率が低い。

合併10周年にあたる記念すべき年に「みさきネット全戸加入促進」など思い切った施策は考えられないか。

答

遠藤情報交通課長
10月末現在の加入状況は次のとおり。

施設名	戸数
告知放送	6,259戸
ケーブルテレビ	3,769戸
インターネット	2,230戸

共聴組合加入世帯や電波状態の良好な世帯のケーブルテレビ加入は難しい。

インターネットは、携帯電話回線を利用した機器が増えているなどの状況であり、加入率が伸び悩んでいる。

問

思うような施策がでないが、視聴してもらえない番組製作などで加入率を上げたい。

分譲地完売に向けて有利な補助金制度、価格の減額、新たな分譲地の造成など、人口減少の歯止め対策はできないか。

答

畑尾まちづくり課長
分譲地は徐々に売れており、転入だけでなく転出減少にも有効だ。町営分譲地購入補助金、住宅新築について固定資産税助成制度などある。

今後造成可能地があれば、積極的な分譲に取り組む。

通勤可能圏内の周辺地域からも転入を目指していきたい。

優良空き家の確保にも努め、移住希望者の多様な住環境のニーズにも対応していきたい。耕作放棄地の増大、耕作者の高齢

化、後継者不足など、農林業の面においても不安がある。

思い切った施策は考えられないか。

答

畝本産業課長
耕作放棄地は、280ha余りある。耕作放棄地の復旧事業の周知を図り、復旧を進めたい。

国の森林資源情報をもとに山林所有者を対象に説明会など開催し、森林資源の適切な保全に努めたい。

新クリーンセンター稼働準備は

問

新クリーンセンター稼働に向けての対応はできているか。

答

高田住民課長
分別は7項目に分かれている。搬入については各市町で決めていく。

細かい具体的な点で心配があると思うが、現状を極力変更しないことを加味しながら、



皆さんのゴミはここに集まります (津山市領家)

答

國宗柵原総合支所 産業建設課長
26年度から工事が始まるが、単年度の施工予定延長が約80mと想定されるため、全体の工事期間が10年以上かかると思われる。

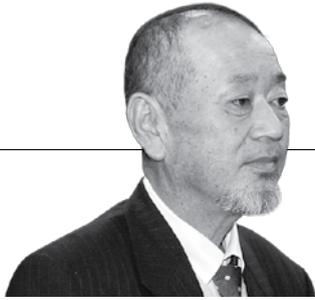
ご理解とご協力をお願いしていく。
各市町の担当者で調整会議中であり、内容が決まり次第、手引きを作成し、説明会を行う。

どうなる 県道津山柵原線 改修工事

問

県道津山柵原線改修工事の概要と予定は。また、安全確保策は。

工事期間中も随時県と協議の上、安全対策を実施する。



交付金の充実で 地域を元気に

質問

地域力向上に向け 町民と共に考える

答弁

問

協働のまちづくりに事業交付金交付要綱の効力が27年3月末までと期限が迫っている。

26年9月定例会で同様の質問をして以来、

高齢化率が50%を超える地区が5地区増え、21地区となった。町内の1/4の自治会が高齢化率50%を超えたことになる。

高齢化が進む状況を考慮に入れ、要綱の見直しはできないか。

答

煙尾まちづくり課長

18年度の創設以来、協働のまちづくりの精神のもと地域力が培われてきた。その地域力を生かし、地域活性化に向けて取り組んでもらうよう、自治会と協議を進めている。予算総額は若干減額となっているが、町民と力を合わせ、できることを確実に進めている。

答

岡部副町長

少子高齢化社会の中で支え合っていくために、いかに交付金を使うかを考える時期が来た。

各自治会でコミュニティ強化のために有効に交付金を使ってほしい。

ピオーネ 海外販売の 目的は

問

美咲町の特産物であるピオーネの海外販売は、生産者にほとんど理解されていないが、目的と理由は。

答

敵本産業課長

県下の他産地と比べ、本町のピオーネ栽培は規模も量も劣る。

海外ブランド力の付加価値を付け、美咲町特産の高級ブドウで販売拡大を目指したい。

答

岡部副町長

東京の大田市場で売れるブドウを目指し、パフォーマンスもしっかりとやっていきたい。

海外へのさらに太いパイプ作りについても研究したい。

問

美咲町のピオーネを広くPRするために作製された化粧箱が大変好評だが、今後も継続する考えは。

答

敵本産業課長

箱の無料配布は5年目になる。

問

ある程度のPRも図られたことから、27年度からは生産者に一部負担をお願いし、引き続き配布をする。

今後の 介護保険事業の 見通しは

問

社会保障の財源となる消費税の増税が先送りとなったが、今後の介護保険事業への影響は。

答

桑元保険・年金課長

美咲町第5期介護保

険事業では予測を上回る高齢化の進行が見られ、より多くの給付、サービスを受ける人が増えた。

その結果、介護保険会計を圧迫することになり、県から多く借り入れながら運営してきた。

国の財源不足が懸念されるが、新年度予算編成を注視していきたい。

問

美咲町第6期介護保険事業の運営に対する見通しはどうか。

答

桑元保険・年金課長

未確定であるが、来年度から始まる第6期計画では、標準的な保険料が現在の月額5,390円から7,800円程度になると思われる。

さらに厳しさを増すであろう将来も見据えながら、健全会計に戻りたいと考えている。



目指すは東京大田市場



持続可能な予算編成の方針は

質問

真に必要な事業を見極め予算化する

答弁

問 27年度から段階的に交付税が減額され、さらに厳しい財政運営となる。

持続可能なまちづくり実現のため、27年度の予算編成方針をどのように考えているか。

また、協働のまちづくり事業は、地域に密着した事業であり、減額対象にすべきではないと考えるがどうか。

答 難波総務課長

規律ある財政運営の堅持、将来負担の軽減を図る必要がある。また、新たなまちづくりへの足場を固め着実な推進を図るための施策は、真に必要な事業を見極めて、予算化しなければならない。

27年度から、中山間地域総合整備事業が始まるので積極的に取り組みたい。

答 畑尾まちづくり課長

協働のまちづくり事業は、総額としては減

額の方向だが、提案型の事業は、取り組みやすい方法を考えたい。

地域行政懇談会は毎年開催を

問 11月25日から3日間、町内3地域で地域行政懇談会が開催された。

各地域で出た意見、要望などを今後の町政にどのように生かしていくのか。

また、2年ぶりの開催であったが、毎年開催するべきではないか。

答 難波総務課長

3地域で181人の参加があり、町長の行政報告の後、質問や意見が出された。意見、要望に関しては検討し、取り入れられるところから行いたい。

答 岡部副町長

町の現状やこれからの思い、方向性をしっかり話ができる場は、大切である。今後、行政懇談会の

あり方、手法も考えていかなければならない。

積極的・専門的な職員研修を

問 まちづくりの最上位の計画である美咲町第二次振興計画が、本年3月に策定された。そのもとに、町

が策定する計画が多くある。

計画策定にあたり、業者委託ではなく職員がコーディネーター（調整役）となつて、町民参加の手づくり感のある計画とすべきであり、そのためには、専門的な職員研修が必

要である。

また、パブリックコメント（意見公募）は情報公開、住民参加の重要な手続きである。計画の素案ができ次第、必ず手続きできるようにするべきではないか。

答 難波総務課長

各種計画は専門性があり、法的根拠に基づいたものを策定することから、素案は業者委託している。職員研修は、県内外での研修、また町主催の研修など行っている。その中で、会議の進め方の研修にも参加しており、今後も続けていきたい。

パブリックコメントは広報する意味からも重要であり、できる限り行う予定である。

答 岡部副町長

町長は、ひとりひとり、人材育成に力を入れており、研修には多くの職員を参加させている。



私たちの意見はどのように反映されるのか（行政懇談会）

あらゆる角度からの 地方創生を



美咲町版総合戦略を 検討中である

問

国の最重要課題として地方創生を掲げ、内閣総理大臣をトップとする「まち・ひと・しごと創生本部」が発足した。本町での対策はできているか。

答

長 畑尾まちづくり課

東京圏への人口集中などに歯止めをかける目的で「まち・ひと・しごと創生法案」が成立し、長期ビジョン、総合戦略が国から示されることになっている。

本町では、27年度中に地方人口ビジョン、地方版の総合戦略を策定したいと考えている。国の動向を注視しながら早急に対応できる態勢を整えていきたい。

答

岡部副町長

各課で将来像をしっかりと見据え、本町でできることや必要なことを検討している。今後示される国と県の総合戦略を勘案し、



出生率アップで地方創生を

問

美咲町版総合戦略を考えていく。本町の主な「しごと」である農林業の活性化に向けた対策も検討が必要である。地域間交流の妨げになる道路の拡幅を推進することで「ひと」も活性化してくる。

答

また、出生率のアップ、町民に本町へ留まってもらえるような施策を検討すべきだと考

答

えるがどうか。各地区で立ち上げられている集落営農組織を利用し、農地の集約を図りながら対策

答

を進めていきたい。矢木建設課長

県の中山間総合整備事業で地域の農道、集落を結ぶ道路、農業用施設などについて、今後5年間で取り組んでいく。

答

辺地計画、過疎計画を見直しながら、本町の全体的な道路計画も検討していきたい。

里親制度の普及推進を

問

里親制度の普及推進を目指す全国里親大会岡山大会が岡山市内で開催された。

県などに登録し、諸事情により家庭で暮らせなくなった子どもを養育する制度である。本町の里親制度登録の状況は、また、出産間近にな

答

ったが、子どもを育てることが難しいといった相談が町にあるか。

答

稲谷こども課長

答

現在、里親登録はない。

問

親と住むことが難しい子どもにも家庭的なぬくもりは不可欠である。

答

里親制度の普及促進、里親センターの設立に乗り出すべきでは。

岡部副町長

県内の養護施設は12カ所、そのうち3施設が近隣にある。施設については、広域で考えていきたい。



合併10年 今後の課題と対策は 連携を密に業務の スリム化を図る

質問

答弁

問

美咲町が誕生し、10年が経過しようとしている。

今日まで各種の施策を実施してきたが、合併してさらに効果が得られたこと、現状の課題と対策案を総務・民生・産業建設各グループでそれぞれ示せ。

答

難波総務課長

総務グループの効果は、管理部門の統合により人件費などの削減が図れたこと。課題は、管理面で負担となっている公有財産の数が膨大になり、十分把握できない状況にあること。

対策としては、指定管理者制度の積極的な導入を図り、全ての公有財産を洗い出す。その後、28年度中には公共施設等総合管理計画を策定し、施設の再配置を推進、保有する必要があるものは処分を行っていく。

答

高田住民課長

民生グループは、職員間の意識の統一が図れ、行政サービスの向上について事務の統一化ができた。

より一層住民サービスの向上を図るため、本庁機能の充実が欠かせない。関係職員の連携・充実を図り、迅速な事務対応ができるよう庁舎機能の集中を図ることが危機管理に対応できることだと考える。

答

矢木建設課長

26年度に実施された機構改革の内容について、さらに検証を行い、業務の検討をしている。住民サービスについては、本庁・支所間における業務の連携を密にすることで、業務のスリム化を図れるよう、各種の提案をしていきたい。

産業建設グループは、上下水道課において、地域間で格差が生じていた水道料金を最も安価な料金に統一した。

産業課では、旧町単位で行っていた生産調整の協議会を一つにまとめ、営農体制の一元化を図ることができた。

建設課では、自治会長から提出される要望書や行政相談により、道路の改良・修繕に対応できた。

課題は、町内3地域の道路事情に格差があることだ。また、担い手不足、高齢化が進んでいるため、道路の草刈りなど通常の維持管理ができない集落が多くなっている。

将来に向けて道路をどう維持管理していくか、道路計画とあわせて考えていく。

みさきめぐりのPRバス運行を

問

本町には、自然、文化財、人、農産物など町内外に誇れるものが多く存在する。本町をよりよく知ってもらいたくために、町内外から参加者を募集し、PRバスを運行してみてもどうか。

答

畝本産業課長

PRバスの運行には、町内に一般貸切バスの事業者が2社あり、事業者との調整が必要だ。

黄福物語にみさきネットを利用し、映像などでPRを行っていきたい。

答

鈴鹿生涯学習課長

現在、町内の文化財の名称、所在地を記した文化財マップを作成している。

多くの観光名所とともに文化財を知ってもらうことは大変素晴らしい。

PRバスの運行については、運行形態などを含め産業課とも協議を重ねる必要がある。



見て・聞いて・めぐってみてよ美咲町（両山寺）



法改正に伴う入札への 取り組みは

質問

答弁

法令を遵守し 企業育成策を研究する

問 本年6月、国会において「入札契約適正化法」「公共工事品質確保法」など担い手3法の改正が行われた。

主な改正点は「ダンピング受注防止対策の強化」「施工体制の把握徹底」など。

この法改正は、社会資本の適切な維持管理などの重要性が増している中で、災害対応を含む地域の維持管理を担う建設業者の技術力向上と担い手確保、公共工事の品質確保、地域の安全と安心の維持を目的に制定されたものである。

この法改正によって、県下市町村の大半で実施されている「入札予定価格の歩切り」は法律違反となるが、本町ではどう対応するのか。

答 岡部副町長
本町の公共工事発注の姿勢は法令遵守

である。法が施行される平成27年4月以降は法に従った手続きを進める。

問 現在、岡山県下27市町村の内10自治体で入札予定価格の事前公表が行われている。

本町ではなぜ実施しないのか。

答 岡部副町長
国・県からの強い指導があるため、入札予定価格については事後公表を堅持する。

問 今後、町内で大型工事が出てきた場合には、町内業者と大手業者との共同企業体を編成し、町内企業の育成を図るべきだと思うが、町の考えはどうか。

答 岡部副町長
町内業者に施工実績をつけることは大きなプラス要素となる。共同企業体の編成については今後研究していきたい。

避難所の周知と 防災意識の 徹底は十分か

問 町が作成した防災マップには町指定の避難所は明記されているが、自治会指定の避難所は示されていない。このため塚角地区、高城地区、金堀地区などは避難所が分からない状態である。どう対処するのか。

答 難波総務課長
防災・減災や互助の要となる自主防災組織の育成を進めており、現在の組織率は80%を超えている。

現在、各自治会や自主防災組織と避難所設定に関する協議を進めており、今年度中には取りまとめ新たな防災マップを作製する。

問 避難した時に災害情報を伝達するための手段として「みさきテレビ」「告知放送」などの設置が必要



避難する所はここですよ

だが、全ての避難所に設備の接続はできていないのか。

答 遠藤情報交通課長
68カ所ある避難所の中で、告知放送を33カ所設置してある。このうち21カ所はみさきテレビに加入している。

問 住民に対して避難所の周知と防災意識の徹底を図るためには、避難所看板の設

置とみさきテレビの接続など最低限の環境整備が必要だが町の考えはどうか。

答 難波総務課長
一定の段階で町内統一した避難所看板を設置していきたい。

答 岡部副町長
テレビは断線の可能性を考慮しなければならぬため、携帯ラジオの配置を考えている。



カワウ駆除の助成金を検討せよ

質問

近隣市町と連携を図り対処する

答弁

問 年々カワウが増え、それと共に町内の漁業被害も増加している。イノシシやシカの駆除には、助成金が出ていますがカワウはない。

カワウは食用にならず、生息する川や池へ向かって猟銃を撃つと跳弾が発生し、大変危険な駆除でもある。町の助成金があれば、少しでもカワウの駆除ができるのでは。

答 敵本産業課長 近隣市町で助成金の制度はない。近隣と連携を図りながら協議していきたい。

問 本町には県の3大河川のうちの2河川がある。それだけカワウの被害も多く発生する。近隣市町に制度がなくとも、本町が先駆けとなるべきでは。

答 岡部副町長 事態を見ながら、状況に応じた判断

をしていきたい。

定住促進に向けた施策を

問 中央地域に「お試し暮らし住宅」があるが、旭地域、柵原地域にも設置する考えは。

また、施設数を増やす考えは。

答 畑尾まちづくり課長 7月からの稼働率は

45%である。

町内の空き家を見学したり、生活環境、教育環境など本町を直接見ていただいている。

まちづくり課では主に次のような管理を行っている。

☆定期的な室内外の環境整備

☆入居前後の室内外の環境確認

☆片づけ

☆自治会長へのあいさ

つに随行

☆時期によっては小さな畑があるため野菜の栽培を行う

現状では、こうした管理面で戸数を増やすことは難しい。

問 旭地域、柵原地域にある町営・町有住宅の空き部屋を利

用できないか。管理もしやすいのではないか。

答 畑尾まちづくり課長

町有住宅の他に、公共施設を使うなどさまざまな方法がある。

一定期間での利用のほか、イベント的な利用も考えられる。

今後、各方面の意見を参考に、関係各課とも協議しながら、定住促進の観点を踏まえて進めたい。

取り組みやすい要綱に

問 河川の清掃活動に関して、県の「ア

ダプト事業があり、町でも河川清掃活動補助金の制度がある。

町の補助金交付要綱の条件が厳しいと聞く。

もう少し簡単にすれば、参加者がさらに増えるのでは。

答 矢木建設課長

交付金要綱は、地域の河川を地域で守ってほしいという願いで制定されている。

必要経費の領収書添付、人数の条件、焼却処理など県の事業と異なる点もある。

町では災害防止の観点から、焼却処理が必須条件である。

問題が出てきたら建設課に相談してほしい。

※「おかやまアダプト推進事業」…認定を受けた団体が一定区間の河川を自らの養子（アダプト）とみなして清掃活動を行うもの。



町内の魚が激減する原因はカワウ

農林業の振興に 支援強化を



答弁 可能な施策を実施する

問

美咲町第二次振興計画の中で、第一次振興計画より住民意識調査結果が悪化した「農林水産業は元気か」を改善するには、町内の農林産物の生産者が夢と希望を持って農林業に取り組めるように支援を強化することが重要だ。

次の支援は可能か。
①特産物直売所の充実強化の支援として「やさしい畑」駐車場に公衆トイレの設置。

②美咲町特産品のブランド強化の支援として、配付しているピオーネの化粧箱の継続と

昨年まで配付していた美咲米の米袋の復活。
③健全な森林資源を育てて公益機能の維持を図るため、森林経営計画策定の支援。

答

畝本産業課長

①公衆トイレについては、勉強したい。

②ピオーネの化粧箱は、ある程度の費用負担をお願いして配付を継続させる。

また、米袋配付の復活は検討したい。

③森林資源情報などを活用し、森林所有者との座談会を通じて森林経営計画の策定を支援していく。

美作岡山道路 建設に積極的な 関与を

問

先日、美作市長と面談した。

「柵原インターに執着することなく、移転家屋の少ないルートで早期開通」との見解であった。

答

岡部副町長

本町の考えはどうか。現行ルートについては、平成15年6月に県の土木委員会、県議会、関係8町で構成している期成会で承認されている。

24年2月には環境アセスメント実施計画図面を各戸配付し、25年



公衆トイレの設置が望まれる「やさしい畑」(久木)

6月から地元説明会を開催するなど継続してやってきている。

これらの経緯から、町長は「ルート変更はもうできない」と言っている。町は、建設促進で対応している。

柵原インターチェンジは、物流・観光だけでなく救急医療や防災

など美咲町発展に必要なのである。

問

地元では「絶対反対」の旗が多数

はためき、大きな混乱が生じている。自治会レベルでは解決できない重大な問題である。

町の積極的関与が必要だ。

答

國宗柵原総合支所産業建設課長

地区に向いて説明するなど理解を得られる努力を行う。

老朽危険家屋 撤去の実績は

問

解体撤去に40万円補助金制度が導入された。これまでの実績は。

答

畑尾まちづくり課長

老朽危険家屋として調査継続中の物件は現在17件となっている。

このうち補助金制度利用予定が1件、危険箇所除去済が3件、撤去意思確認1件、相続確認1件で、残りは相続人調査継続中などである。

また、自治会長に依頼して町内の空き家を調査しているが、現在470件の報告があり、このうち70件超が危険家屋とのことで、現在確認調査中である。



町の収入をどう増やすか

質問

徴収率アップに 万全を期す

答弁

問 合併10年を迎え、今後の交付税減額が懸念される。

歳入を増やす方法として、広報みさきに有料広告を掲載してはどうか。

答 遠藤情報交通課長 広告事業実施要綱を定めているが、広報紙に掲載するには、別に規格や金額を定める必要がある。

広報紙やホームページで募集するが、応募が少数な場合は限られた業者の広告となる可能性があり、現時点で有料広告掲載は難しい。

ホームページ、町の運行バスには有料広告を掲載できる要綱はそろっているが、掲載希望はないのが現状である。

問 有料広告を掲載している他市町を参考に検討すべきではないか。

また、下水道、みさきネットの加入率向上

を図り、収入の増加を。 **答** 難波総務課長 徴収率を上げる

ことも一つの方法であり、徴収に万全を期す。一般寄附などお願いし、ふるさと納税にも検討を加え、額が増えるよう努力したい。

桃太郎伝説で町のPRを

問 産業や観光、また打穴中の桃太郎伝説など町のPRに活用できないか。

答 畠本産業課長 黄福広場で映像

など使い、PRしたい。黄福広場の「じえらいす」や「ピザ」の店は観光案内所も兼ねており、町内の名所、施設を紹介している。

答 長 煙尾まちづくり課 昭和3年三保村誌に桃太郎の記事があり、



桃太郎伝説を売り出せ鬼山太鼓

最古の桃太郎伝説ではないかと言われている。10月に後楽園で開催された12市町村フェスティバルでは、「元祖桃太郎伝説」の地として美咲町をPRしてきた。

問 提案型まちづくり事業交付金制度の応募、利用状況はどうか。

答 長 煙尾まちづくり課 22年から26年までの5年間で15件の応募があり、10件採択した。提案型の採択条件は、自主活動組織および自治会単位となっており、事業に沿った活動をする団体であれば活用してもらえるように、制度改革を検討している。

答 長 煙尾まちづくり課 7月の運用開始以来、予約日は62日間で、45%の稼働率であった。利用者は延べ13世帯、関東からの利用者が約7割を占め、約8割が子育て世帯であった。

問 空き店舗改修事業の状況は。

答 長 煙尾まちづくり課 空き店舗を改修し営業予定が1件、相談が1件あるが、空き店舗等活用事業補助金を使った実績はまだない。

問 放置された空き家を買取り利用している自治体もある。老朽化が進んでいる。さらにスピードアップして取り組むべきでは。

答 岡部副町長 積極的な買い取りは難しいが、アイデアの面で取り組みたい。

問 空き家対策のスピードアップを

お話し暮らし住宅の成果は。

美咲町の地域創生を どう進めるか



現在の優良な政策を 発展させたい

問 過疎化、高齢化の進む中で、本町の地域創生をどう進めるのか。

答 岡部副町長 政府が進めている「まち・ひと・しごと」の戦略構想に対して、美咲町として何ができるかということを進んでおきたい。

問 これから検討していくとの回答であったが、平素から本町の将来を考えておく必要があるのではないのか。

本町では、他にはない多くの子育て支援が行われている。特に、町が造成した分譲地に住宅を新築すると、補助金が交付されている。

この制度では、若者がこの地域にのみ集中するのではないかと。地元を守るためにそれぞれ地域で家を新築した若者に対し、補助金の支給、または固



いつまでできるのか？地域の管理

定資産税の減免などできないか。

また、学校を卒業し、地元に残る若者に支給されている留町奨励金の増額はできないか。安心して職務に専念できる職場づくりのため、正規職員の雇用に行政が積極的に取り組むべきではないか。

町長は、協働のまちづくり交付金を減額したいとのことだが、地域の活性化に逆行する

のではないかと。

答 岡部副町長 協働のまちづくり交付金の減額分については、これまでの飲食分と考えてほしい。

いただいた提言は、しっかりと検討していきます。

最低制限価格 見直しの結論は

問 建設工事最低制限価格について、9月定例会で検討する

とのことであったが検討したか。

現行のままだと、10億円の工事の場合、その日のコンピュターによって4千万円高いところで落札されることもある。早急に検討すべきではないか。

答 岡部副町長 最低制限価格の幅については、研究中であり、結論が出ていない。

所有者の責任で 災害復旧を

問 赤線道路、青線水路の管理はどこか。

答 矢木建設課長 管理は町が行っているが、草刈などの維持管理は地元にお願

いしている。

問 赤線・青線の災害復旧は、所有者

である町が責任をもつべきと考えるがどうか。

答 矢木建設課長 現地を確認し、

利用状況により対応したい。

シルバー人材 センターに さらなる支援を

問 シルバー人材センターが設立され、各地域で活動している。

高齢者の雇用促進、地域の活性化のために、町事業の草刈りなど簡易な作業について随意契約の適用ができないか。

答 福田福祉事務所長 一定の補助金を出しており、随意契約でも提供している。

問 高齢者の雇用安

定などに関する法律に、安定雇用の確保、職業の安定、必要な援助が明記されている。

さらなる支援策を検討すべきでは。

答 岡部副町長

さらに町民から信頼される団体になるよう相談に乗っていく。



足湯でさらに 地域活性化を図れ

質問

みち停の活用策を 積極的に進める

答弁

問

「みち停あさひ」には、買い物だけでなく、休憩所なども併設されており、地域の団らんの場となっている。

以前、議員提案した足湯が12月23日にオープンすると聞く。

今後の運営、維持管理費をどのように考えているか。

答

山本旭総合支所産業建設課長

12月中旬を目途に稼働できるように努力している。

管理は「みち停あさひ」の指定管理者であるJ A津山に足湯を含めて一体的に委託するよう協議している。

管理に伴う経費については、指定管理料を増額するように検討している。

足湯を中心に地域のコミュニティの活性化につながるよう活用してほしい。

問

「みち停あさひ」向かいの岸谷川に橋をかけ、ダム湖畔一周の道路をという提案もしていたが、その後どうなっているか。

答

山本旭総合支所産業建設課長

「みち停あさひ」の周辺整備として、遊歩道を計画している。

歩行者の安全や用地を考慮しながら、財源

問

を検討中である。財源の問題は、かなり前からの案件である。

答

山本旭総合支所産業建設課長

湧いている温泉、冷泉を使用するのか。

山本旭総合支所産業建設課長

問

練っているが、財源確保までは至っていない。設備的な準備はできているが、許可の問題などあるため当面はほえみの湯で運営する。

答

山本旭総合支所産業建設課長

温泉、冷泉が使えるように努力していく。

問

不安視している。民泊可能な家庭があれば、新しい定住の取り組みにもつながる。

答

民話館、山荘や

なほら、二上山荘などの施設の宿泊料金を、お試し住宅と同じような料金設定にできないか。

問

中央地域にあるお試し暮らし住宅（以下「お試し住宅」）がフル活用されていると聞く。

町民に登録してもらい、民泊で地域にだけ込んでもらえれば地区の様子など体験できるのではないかと。また、町の宿泊施設の活用も一案である。

地区の催しの時期などにPRしてみてもどうか。

答

畑尾まちづくり課長

移住希望の人は、地域の人との人間関係を

移住希望の人は、地域の人との人間関係を



スポ少の後で、もんげ～ええ湯（「みち停あさひ」足湯）

地域包括ケアシステムへの考えは



医療・介護・保健の連携が重要

問

住み慣れた地域で医療、介護など生活支援のサービスを受けることができるのが、地域包括ケアシステムの構築である。

①地域包括ケアシステムに関する考えは。
②認知症検診の実施状況と今後の取り組みは。

③地区に集落支援員の配置はできないか。

答

村島健康増進課長

①可能な限り住み慣れた地域で生活できるような包括的な支援を考えている。

在宅を支えている医療・介護・保健に関わる人々が連携することが重要である。

②認知症は、早期発見が非常に重要である。

認知症の検診は実施していないが、各地区で心の健康相談を実施している。

認知症の早期相談や医療につながる手助けをしており、今後は、美

作認知症疾患医療センターと連携し、安心して地域で暮らせる地域づくりを進めていきたい。

答

長 畑尾まちづくり課長

③現在、集落支援員には空き家対策を中心に取り組んでもらっている。

地区の巡回、高齢者の見守りがどの地区でも大きな課題である。

旭地域では「あさひみまわり隊」が見守り活動とあわせた防犯パトロール活動を積極的に行っている。

社会福祉協議会や他の機関とも情報を共有し、地域全体で見守りなどの活動を行いたい。

ESDを

取り入れた教育を

問

岡山市でESD世界会議が開かれた。

ESDとは、環境や貧困、人権、平和、開



地域を見守る小ケア会議

発などの諸課題をみずからの問題としてとらえ、将来の世代や他の地域の人々と共存できる社会の在り方を目指す学習、教育のことである。

答

泉教育長

本町でもESDを取り入れる考えは。24年に策定された教育振興基本計画に「学びプラン」「つながりプラン」「夢を育むプラン」の3本の柱がある。

豊かな自然と温かい

る考えは。

答

長 畑尾まちづくり課長

地域で受け入れる体制が整っているかどうか、協力隊成功の重要な要素である。

自治会長協議会でも議論を十分に深めて検討したい。

鉾山公園をもっと楽しめる施設に

問

鉾山公園運営協議会の運営委員会開催の頻度は。

答

國宗柵原総合支所産業建設課長

26年度に1回開催し、黄福柵原駅の駅名を決定した。

問

来場者に楽しんでもらえるような企画を。

答

畝本産業課長

各種団体と連携をとり、利用方法を詰めていきたい。

地域おこし協力隊で活性化を

問

地域おこし協力隊の制度を導入す



児童虐待から 地域の宝を守れ

質問

見守り体制の強化に 努めている

答弁

問 子どもは地域の宝であるが、児童虐待が全国的に発生している。

本町でも25年度分の決算事務報告で驚くほどの数値が報告されていた。

虐待相談の内容や実態、対応状況は。

また、虐待の原因は。

答 稲谷こども課長

25年度の相談件数94件中、児童虐待相談件数は74件(27世帯)である。

内訳は、暴力10件、心理的虐待(言葉の暴

力)15件、育児放棄49件で、大事には至っていない。

児童相談所、警察、保育園、小・中学校、行政など連携した要保護児童対策協議会を設置し対応している。

また、中学校区でネットワーク協議会を設

け、見守り体制の強化に努めている。

答 木谷教育総務課長

状況把握に努め、こども課と緊急ケア会議で対応協議している。

学校を含め、地域全体で子どもの見守りを

願っている。

答 岡部副町長

虐待の発生要因は、親のストレス、親子関係など複雑で、どこでも発生し得るという認識で予防策に取り組む。

虐待が発生しやすい家庭環境にある子どもや保護者に対する支援を充実させる。

子育て支援や家庭の情報収集に努め、虐待のない地域社会に全力を傾けたい。

問 虐待が発生しやすい家庭環境とは

どのような環境か。もっと深く掘り下げることが重要だと考えるがどうか。

答 泉教育長

両親が円満で健全な家庭であれば、何かが起きても元へ戻りやすい。

様々な事情により課題を抱える状況となつた家庭の子どもに虐待が起きる可能性が高い。

学校への相談、児童相談所や警察への相談により問題が克服できる場合があるが、地域の方々にもしっかり見守ってもらうことが必要だ。

答 岡部副町長

つらい立場にある家族が相談できる場所、声をかけ合える地域づくりが虐待減少につながる。

指定管理契約を見直せ

問 町有施設の指定管理契約が26年度

末で期限を迎える。契約更新に当たって、適正な指定管理料など検討するか。

各課で指定管理契約

されているが、公の施設を一括して管理することで、公平性が保てるかと考えるが、指定管理契約を一本化する考えは。

答 畑尾まちづくり課長

指定管理は、52施設である。

27年度更新に向け調整会議を行い、不公平感の解消や行政コストの縮減、施設の活性化を図れるよう見直しを進めている。

また、より公平で適正な指定管理料の設定に取り組み。

答 岡部副町長

施設を把握している課が指定管理を管轄し、課の間でしっかりと連携を取る体制作りと一本化のどちらが良いか検討していきたい。



大人が改めるべきことがある

町民の皆さんこんにちは

サークル紹介 第21回

心やすらび一碗の茶



西川茶道教室(裏千家)

●いつ頃から活動していますか●

昭和50年代後半から教育委員の勧めで始めたと聞いています。指導者不在で再出発したのは平成10年からで「茶の湯独習書」をひもときながら今日に至ります。

●どんな活動をしていますか●

月1回の教室。さくらまつり、花山公園まつり、福祉大会、文化祭でのおもてなし。また、淡交会津山支部で開かれる初茶会とお月見茶会へ勉強に行っています。

●メンバー構成は●

70~80代の9人で、お稽古は進んでは戻り、戻っては進むという楽しいメンバーです。

●活動を始めたきっかけは●

先輩に茶会へ誘われて、その場の雰囲気を感じたことからです。

●楽しいことは何ですか●

一碗の茶の美味しいこと。そして、人生経験豊かな者ばかりが、お稽古6歩、おしゃべり4歩で楽しく励まし合いながらストレスを解消できることです。

●これからの活動は●

「人生生涯学び」を頭に、心身共に健康で、利休居士が唱えた「わび」の世界をもっと深めることです。

●議会に一言●

活力ある町づくりを!! 町内の多くのサークル活動に、時にはお顔を見せてください。

町内に広めてください

茶のころ

編集 後記

1月11日に
は美咲町成人
式が開催され、

151人の新成人が誕生しました。

地元で生まれ、地元で育った若者たちが地元で生活できる基盤を整えていくことが、今国が唱えている「地方創生」を実現させるために一番求められていることです。

人口減少に歯止めをかけ、若者世代の関心を都市部から地元へと転換させるためには何が必要なのか。これを政策として実現していくための「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の議論がこれから始まります。

議会の動きを注視しながら議会だよりを是非ご愛読ください。

(松田記)

議会広報編集特別委員会

委員長 松田 英二

副委員長 金谷 高子

左居 喜次

片山 正憲

延原 剛

江原 耕司